

調布市郷土博物館を利用することによる効果の程度について博物館利用者と住民を比較すると、博物館利用者では「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた割合（いわゆる肯定的意見）が最も高いのは「地域の歴史や文化・自然について様々な発見がある」(90.5%)で、以降「気軽に立ち寄って楽しむことができる」(82.9%)、「地域への愛着や興味・関心がたかまる」(76.6%)、「自分の興味や研究等について有益な情報が得られる」(76.2%)と続いています。

一方、住民では「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた割合（いわゆる肯定的意見）が最も高いのは、利用者と同様、「地域の歴史や文化・自然について様々な発見がある」(68.3%)で、以降「子どもの歴史・文化・自然への興味を引き出せる」(61.0%)、「地域への愛着や興味・関心がたかまる」(57.1%)と続いています。

このことから、博物館利用者及び住民の双方が最も効果があると考えているのは、「地域の歴史や文化・自然について様々な発見がある」であることが分かりました。

#### ④ 博物館の運営への参画意向

博物館の運営への参画意向に関するアンケート結果を図16に示します。

調布市郷土博物館の運営への参画意向について博物館利用者と住民を比較すると、博物館利用者では「学習会やサークル活動への参加」が23.0%で最も割合が高く、次いで「資料の収集・整理作業への参加」(14.4%)が続いています。

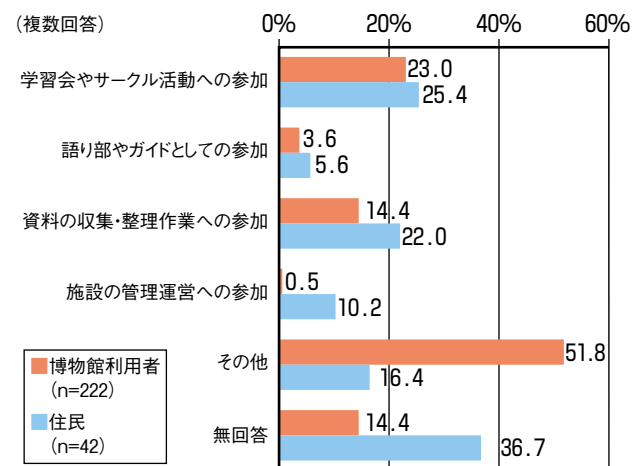


図16 調布市郷土博物館の運営への参画意向

一方、住民においても利用者と同様、「学習会やサークル活動への参加」が25.4%で最も割合が高く、次いで「資料の収集・整理作業への参加」(22.0%)が続いています。

このことから、学習会、サークル活動、資料の収集・整理作業への参加意向が他と比べて高いことが分かりました。

#### ⑤ 博物館を利用したことがない理由

さて、ここで調布市郷土博物館を利用したことがない理由について、住民アンケートで博物館のことは「知っているが利用したことはない」と回答した人に尋ねた結果を図17に示します。

調布市郷土博物館を利用したことがない理由は、「興味はあるがきっかけがない」が53.6%で最も割合が高く、次いで「博物館がある場所を知らない」(23.2%)、「展示しているものに興味がない」(16.1%)と続いています。

また、性別や年代別、居住年数別に確認しても、特に大きな違いは見られませんでした。

このことから、これまでに利用経験のない新たな来館者を獲得することを望むのであれば、来館するきっかけを与えることによって5割強の人が来館する可能性があることとなります。これについては各人の興味を引くポイントが多様で異なることが推測されるため、なかなか一筋縄ではいかない可能性もありますが、現在取り組んでいない事業に着手することで博物館へ足を運ぶきっかけを提供できると考えます。さらに、2割強の人が博物館の所在する場所を認識することで新たに来館する可能性があることが分かりました。

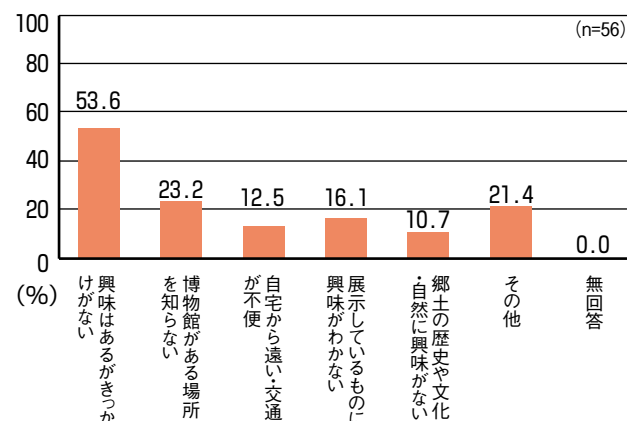


図17 調布市郷土博物館を利用したことがない理由

#### 4. 多摩・島しょ地域の博物館におけるニーズギャップの分析

多摩・島しょ地域の博物館の現状及び利用者の現状を2章と3章で見てきました。本章では、両者を比較することでギャップを確認してみます。

##### ① 博物館を利用することによる効果

図18<sup>13</sup>は博物館を利用することによる効果について博物館<sup>14</sup>、博物館の利用者、住民に尋ねた結果を表したものです。各項目について「とてもそう思う」なら「5」、「そう思う」なら「4」、「どちらともいえない」なら「3」、「あまりそう思わない」なら「2」、「まったくそう思わない」なら「1」の5段階で数値化し、全サンプル数で除した値を表記しています。数値が大きいほど「そう思う」程度が高いこととなります。

博物館と利用者と比較すると概ね同様の傾向があることが分かりますが、「まちづくり」関係の項目（「まちづくりや地域づくりの役に立つ」、「まちづくりや地域づくりに参加するきっかけになる」）においては、博物館が考えているよりも利用者を感じる方が高くなっています。博物館側はそれほど強くまちづくりを意識していなくても、利用者にはそれなりに意識さ

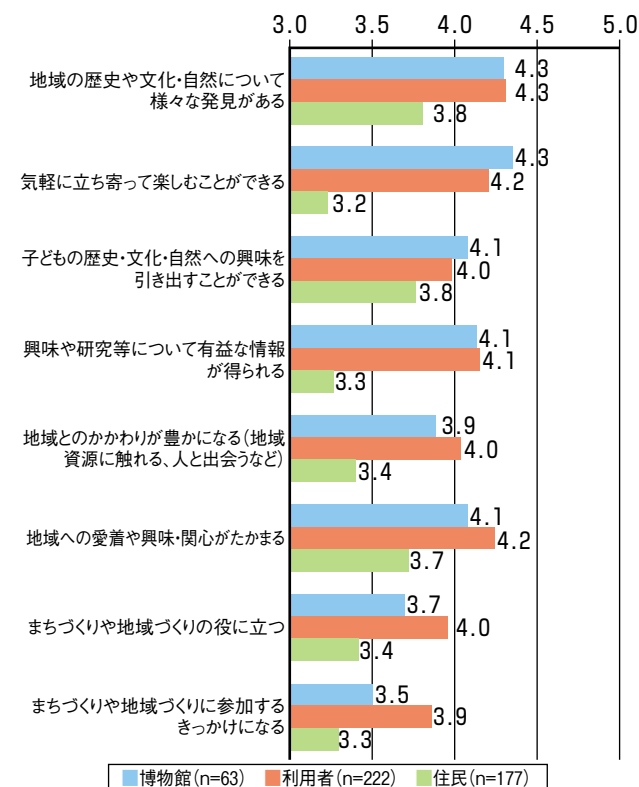


図18 博物館を利用することによる効果

れていることが分かりました<sup>15</sup>。このことから、博物館側がまちづくりを意識することにより、より利用者にとってその効果が高くなるのが期待されます。

次に博物館と住民とのギャップについて確認してみます。住民は総じて博物館より低い評価をしています。その中でも大きく差が開いている「気軽に立ち寄って楽しむことができる」と「興味や研究等について、有益な情報が得られる」に着目します。前者は、博物館側は高く意識していますが、住民はそうのように認識しておらず、本調査で提示した8項目の中でも最も低い効果と判断しています。これは、博物館としては敷居を低くしているつもりでも実際には感じさせない何かが存在しているということだと考えられます。それが何なのかを突き止め、改善することにより、これまで以上に裾野が広がった博物館にすることができると考えます。そして後者については、博物館側は3番目に高く意識していますが、住民は2番目に低い効果と判断しています。これは前述の調査の結果からも住民はおよそ4人に1人の割合でしか博物館を利用していないことから、「興味や研究」の対象が博物館の取り扱う内容と異なることによると考えられます。しかし、逆に考えればここを博物館側が改善することにより、これまで来館するには至らなかった人に足を運んでもらえる可能性があることを示しています。

##### ② 博物館の事業内容別の注力度合・興味・利用意向

図19<sup>16</sup>（次ページ参照）は博物館の事業別内容での注力度合・興味・利用意向を示したものです。博物館には各事業への注力度合を、住民には各事業への興味及び利用意向を聞きました。①同様、5段階で表しているのので、博物館、住民ともに数値が大きいほど注力度合が高く、興味と利用意向の度合いが高くなります。

全般的に博物館側は数値が高く、住民の興味や利用意向は博物館よりも低い傾向を示しています。しかし、見学会については逆転現象が起きており、博物館側は提示した7項目中最も力を入れていないものになっている中、住民の興